

研究評価委員会分科会の各委員からの所見について（事前評価）

課題名「二酸化炭素排出抑制のための新エネルギーシステムならびにその建築・設備への最適化技術の開発」

1. 主な所見

- ・所見 革新的な二酸化炭素排出抑制をうたうだけの着想の裏付けが疑問。
- ・所見 既存ストックではなく新築対応と読めるが、だとすると2010年に対応するには無理があるのではないか。
- ・所見 研究内容が具体的とは言い難い。目的が大きすぎて具体的な計画が明確でない。
- ・所見 エフォートは決定的に不十分（D評価）。他機関との連携にも具体性がない。
- ・所見 具体の計画とも関わるが、相当の外部資金が必要と思われる。
- ・所見 建築研究所の課題としてふさわしいことの具体的な記述が必要。
- ・所見 設備機器よりも建築そのものの技術開発に焦点を当ててほしい。課題を見直すべき（D評価）。
- ・所見 学会などの学術団体で行われている研究との関係が明らかになると良い。
- ・所見 普及を目的とした開発なので、経済性・普及可能性についても組み込んだ形で実施することが望ましい。
- ・所見 要素技術の住宅・建築への最適化技術を実用化するまでは難しいのではないか。
- ・所見 建築研究所の長期ビジョンとの関係はどうか。

2. 主な所見に対する回答

- ・所見 に対する回答
革新的な技術シーズならびにそれをベースとした技術開発の可能性と実用化の見通しを持っているが、その具体の内容を公表できる段階にない。課題概要書は一般に公開されるため、表現内容は吟味されて然るべきと考える。そのため、明確な記述になっていなかったが、より具体的表現を試みる。
- ・所見 に対する回答
指摘の通り、2010年に普及を果たし、CO₂排出抑制に大きく貢献するのは難しいので、2010年の目標として、「技術の実用化を終了し、普及の足がかりを得ること」とする。
- ・所見 に対する回答
建築と設備の双方での技術開発を目指すこととしているが、具体の技術シーズのあるエネルギー技術に特化し、より具体的な表現とする。しかし、上記（所見）の理由により、具体の表現が難しい面が残る。
- ・所見 に対する回答
エフォートは可能な限り見直す。外部機関との連携、外部に設ける委員会等を有効に活用し、少ないエフォートで最大の効果が発揮できる体制を構築する。
連携予定の機関種別を記述する。かつ、外部機関等との連携を重視し、最小限の建築研究所スタッフで最大限の成果を導くように計画する。
- ・所見 に対する回答
国総研要求の総プロとの連携はもちろん、その他の外部資金の獲得を目指す。本課題

の数倍の予算獲得を目指し、これを厳選した連携先との共同により有効活用する。

・所見 に対する回答

世界を先導するプロジェクトであり、わが国の産業界全体への貢献のためには国家的な見地で行うべきであり、そのためには建築研究所が実施することがふさわしい。

・所見 に対する回答

全体計画を見直し、開発対象を絞ってより具体的な表現とする。すなわち、建築の技術開発については現行の課題「エネルギー・資源の自立循環型住宅に係わる普及支援システムの開発(H13-H16)」においても取り組まれており、その成果に基づいて以降の展開を検討したい。したがって、本研究ではエネルギーシステムとそれの住宅・建築への適用に的を絞った内容に改める。

・所見 に対する回答

できるだけ既存の団体等における研究との関連を記述するようにする。

・所見 に対する回答

指摘のように、経済性・普及可能性も検討するように進めたい。

・所見 に対する回答

出できれば実用化を目指したい。少なくとも、そのめどを立てることは必須と考える。

・所見

建築研究所の中期目標に対しては、現行の目標においても、おそらく次期の目標においても、二酸化炭素排出の抑制は重要なテーマであり、その具体の技術的解決策の提示を目指す本研究の位置づけは重要であると考えます。